

From Devastation to Recovery and Revival in the Aftermath of Fukushima's Nuclear Power Plants
Accident

福島原発事故後の大混乱からの復興管理

大戸 斉

福島県立医科大学

著者

大戸 斉¹、安村 誠司¹、前田 正治¹、開沼 博²、藤森 敬也¹、Kenneth E Nollet¹

1 福島県立医科大学、2 立命館大学

要約

2011年3月の地震、津波に引き続いて発生した福島原発事故によって、18万5000人が避難を余儀なくされました。長期にわたる避難と拡散した風評は、放射線暴露による直接死は無かったのにもかかわらず、住民の身体的、精神的状況を困難にしています。しかしながら、事故から5年を経過する過程で、産業と経済活動では着実に回復しつつあり、広範に存在した深い恥辱意識や自己否定感は堅実に軽減しています。福島県から県外に避難した6万2800人中2万1000人は帰還し、実際福島県の経済的、社会的活動も回復しています。新築家屋数は驚くほどに増加し、農業出荷額、求人数、工業出荷額も回復してきました。とは言っても、災害後の講演会や住民との対話集会は折れない心の形成を促してきましたが、住民のかなりの割合はうつ傾向や人生の目的を見いだせていません。

掲載情報

「Asia Pacific Journal of Public Health」(2017)

Ohto H, Yasumura S, Maeda M, Kainuma H, Fujimori K, Nollet KE

Asia Pacific Journal of Public Health. 2017 Mar; 29(2_suppl):10S-17S.